

那珂川町図書館

オススメの1冊

『スタートボタンを押してください』 ケン・リュウ／[ほか著] 東京創元社
【933.7リュ】

“ゲーム”と聞いて、みなさんはどんなものを思い浮かべますか？ビデオゲーム、ボードゲーム、オンラインゲームなど、様々なゲームがあふれている現代。そんな“ゲーム”をテーマにした小説を読んでみませんか？

この本はヒューゴー賞を受賞したケン・リュウや作品がハリウッド映画化された桜坂洋など、世界中の現代SF作家たちによる12作品を集めた“ゲームSF”アンソロジーです。

亡くなったゲーム仲間の部屋で、その死に関わる秘密が隠されたゲームを発見する『1アップ』、定時後のゲーム会社で武装する謎の男たちと闘う『リコイル！』、運命的な出会いを果たした日を境に、空から星が消えていってしまう『神モード』など、ゲームに触れたことがある人ならニヤリとするタイトルばかり。友情、サスペンス、ファンタジーなど様々な角度からゲームを表現したこの本で、みなさんも新しい体験を試してみませんか？

『物語を忘れた外国語』 黒田 龍之助／著 新潮社 【804加】

チェコ共和国で講演をすることになった著者はあることで悩んでいました。それは講演で話すときの言語。先方は、日本語なら下級生向けに通訳をつける、英語なら学生たちみんなが分かる、チェコ語なら大歓迎といている…。本の冒頭でそう悩むのは、神田外語大学特任教授で言語学者の黒田龍之助先生。テレビ・ラジオの語学番組への出演や、英語、ウクライナ語、ロシア語など、様々な言語の辞書や解説書の著者でもあります。

この本では言語学者の視点から外国語と物語の関係を紐解きつつ、外国語の面白さを紹介しています。例えば『犬神家の一族』（横溝正史／著）を英語で読んだことや、『絶唱』（湊かなえ／著）に出てくるトンガ語の演出についてなど、本書には様々な外国語と書名が登場します。

外国語学習は長編小説に限る、という黒田先生。「外国語で読書をする場合、心がけるべきはすべてを分かろうとしないことである。(中略)ときには分かんないなあと思痴りながら、とりあえず先に進む。それが読書である。日本語でだって、似たようなものではないか。」(P18より引用)の一文に、目から鱗が落ちました。

さて、冒頭のチェコでの講演。黒田先生は一体何語で行ったのでしょうか。気になる方は、ぜひ読んで確認してみてください。

那珂川市図書館司書（たいこ）